

考 動

学校教育目標

「たくましい生徒 やさしい生徒」

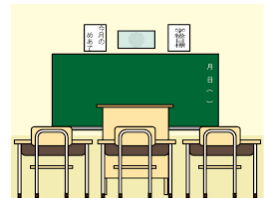
重点目標 「考動・貢献」

令和5年9月20日
全国学力状況調査特別号
富士市立須津中学校
文責 教頭

今年度、4月18日（火）に行われた全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本校の特徴をまとめました。

全国学力・学習状況調査とは？

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。



どんな調査ですか？



この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、今年度「国語」「数学」「英語」が実施されました。知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

本校の学力調査（国・数・英）の結果の概要

数学と英語は、静岡県及び全国の平均正答率とほぼ同じでした。

国語では、「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」問いに対して、無解答率が低く、県・国の正答率に比べ、3割近く上回っていました。

数学では、「最小の記録から累積度数求める問い」について、国語同様に県・国の正答率に比べ3～4割程度上回った結果でした。

2年ぶりに実施された、「英語」については、本校の平均正答率は、県をやや上回りました。個別の問題を見てみると、全国・県を大きく上回るものがありました。「話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する」という問いに対して、無解答率が低く、県・国の正答率に比べ7割近く上回っていました。しかし、「英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」という問いに対して全国・県から10割近く下回るものもありました。これらから、本校の3年生は、「適切なものを選択する力は高いが、内容をまとめて自分の考えをはっきりとさせて、表現する力が全国や県の平均より下がっている」ことがわかります。このことから、学習指導要領で示されている「思考力、判断力、表現力等」の3つの力の中で表現力を高めていくことが必要だと考えます。「言葉を発しながら文章を書く」、よい表現にふれるために「本を読む」などある程度知識として蓄えることをすすめていきたいと思えます。

本校の学習状況調査結果の抜粋

表内の数値は、
肯定的な回答
の割合を合計

質問事項（富士市共通の目標）	本校	県	全国
家で自分で計画を立てて勉強していますか。	55.1	52.9	55.0
学校の授業時間以外に、普段、1日当たり30分以上読書をしていますか。	23.7	15.2	13.8

富士市では、「自分で計画を立てて勉強をしている 50%以上」、「1日30分以上読書をしている 35%以上」というふたつの数値目標を設定しています。本校は、読書時間の減少がでています。全国的にも昨年度より10数パーセント割合が減少している項目です。図書館司書とも連携し、生徒への継続した投げ掛けを行っていきたいと思います。

質問事項（ICT活用に関することを含む）	本校	県	全国
学習の中でタブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	94.9	94.6	93.3
学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	57.6	66.7	69.2
学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか。	74.9	81.8	79.7

GIGAタブレットについて、今回の調査結果から、授業で扱うツールとしては機能しています。また、自ら追求したりする意欲、他者と関わってさらに自分の考えを深めたりする姿勢も、これからの社会を生きていくうえで必要な姿勢です。本校では授業の中でグループ活動を入れていますが、子どもたちが自ら発するような主体的に学ぶ学び方を大事にしていきます。今後とも御協力よろしくお願いいたします。



今後の取組

学力調査や学習状況調査の結果は、ほぼ例年と同じ傾向でした。生徒同士が話し合う場が確保されていることや、総合的な学習の時間では、ねらいをしっかりと押さえた学習活動が展開されていて、本校の目指す授業が実践できていると考えます。また、地域社会と中学生のつながりが確保されていて、地域のみなさまが生徒を見守っている様子も伺えます。

課題とした点は、ゲームやスマホ等を使用している時間が長く、その分、授業の復習など家庭学習に時間を費やしていないことがわかります。さらに、睡眠をとる時間が不規則で望ましいリズムで生活できていない生徒が何人かいるようです。また、昨年までに比べ、読書をする割合が10%以上少ないです。これは、朝読書の時間を削減したことやSNSの利用時間が増えていることが考えられます。

今後は、この結果を須津中生全体が抱える課題として捉え、学校と家庭が共通理解をもち、解決策を図る必要があると考えますので、御家庭で話題にいただければ幸いです。



全国学力・学習状況調査 HP（国立教育政策研究所）

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

